



ハンドブック
スポーツマンシップの基礎知識

一般社団法人 日本ポニーベースボール協会 発行
一般社団法人 日本スポーツマンシップ協会 編集



Protect Our Nation's Youth

はじめに

日本ポニーベースボール協会の理念ならびに指導者10ヶ条を根底で支えるのが「スポーツマンシップ」である。スポーツマンシップという言葉は、スポーツの本質を示すものと認識されているものの、その内容に対する解釈は曖昧である。しかしながら、物事の本質を理解し伝えていくことは、当協会構成員すべての者に求められることであるため、日本スポーツマンシップ協会とパートナーシップを結び、具体的に定義づけることとした。

現代スポーツの基本的な枠組みは19世紀半ばの英国で形づくられたとされているが、当時の見解を整理すると、スポーツとは運動とゲーム(ルール+競争)と位置づけられ、楽しいものであると定義されている。加えて、スポーツマンとは、肉体・意志・知性を備えた良き仲間同志が互いを尊重しあい、ルールに則り競争することができる「Good Fellow」、すなわち「仲間から信頼される者」と定義される。

つまり、さまざまな立場でスポーツに関わる人々の存在とルールを尊重し、勇気をもってチャレンジし、最後まであきらめずに覚悟をもって全力を尽くすというスポーツを楽しむための原理原則を理解し、行動することが「スポーツマンシップ」である。

日本ポニーベースボール協会では、指導者10ヶ条で「勝敗を競うことは手段であって目的ではない」と定めている。また、日本スポーツマンシップ協会も、「スポーツを楽しむための手段として勝敗を競う」ものと示している。共通する根本的な思想を念頭にすべての者が活動すれば、真の意味で「選手が主役」の野球が実現できると信じる。

2021年7月22日

一般社団法人日本ポニーベースボール協会

一般社団法人日本スポーツマンシップ協会

指導理念

我々日本ポニーベースボール協会に所属する指導者は野球を通じて、選手たちを心身共に鍛錬し「社会に有益な未来の人材を育成する」という、崇高なる世界共有のポニーベースボールの指導理念を礎とした使命感を常に胸に刻み活動することを誓う。

日本ポニーベースボール協会が掲げる理念を浸透させるべく、選手諸君とともに国内はもとより国際少年野球界に於ける立ち位置を更に向上せしめることを誓う。

指導者自身が「生涯学習」の必要性を理解・実践し、選手をはじめ保護者・学校・社会からいささかも非難されることのないよう、ここに示す指導理念 10 条に則り精進を重ねることを誓う。

最後に、当協会の全ての構成員は、指導理念 10 条を十分に理解するとともに「知行同一」の精神のもと、広く社会に見えるよう、選手諸君の良識として心に刻まれるよう行動・実践することを誓う。

日本ポニーベースボール協会



Protect Our Nation's Youth

1. ポニーの指導者は代償を求めてはならない。

我々は 清廉潔白な青少年と向き合う立場にあることから、外部はもとより内部からも代償を求めてはならない。なぜならば、代償のあるところに必ず醜い人間関係や争いが発生するからである。

2. ポニーの指導者は暴言・暴力・ハラスメントを排斥する。

選手を指導するに当たり、暴力を行使したり 怒声・罵声・暴言を吐いてはならない。暴力のあるところに必ず反発がある。暴力は、我々の理念である「青少年の成長を守る」を達成するための手段として、些かも有益とはならない。真の指導は、1人1人心を持った選手諸君との「心と心の触れ合い」である。

3. 手段と目的を混同してはならない。

勝敗を争うことは手段であり目的ではない。勝敗を競うファイトの中に技術、精神名の鍛錬と成功があり、そこから学びえたものが少年期の人格形成の糧となって、やがて社会に貢献する人材に成長する。ここに協会の存在意義があることを厳粛に受け止めるべきである。

4. ポニーの主役は少年たちである。

日本ポニーベースボール協会の主役は選手諸君であり、大人ではない。

したがって全ての成人構成員は、選手たちが野球をする環境を整え、常に背後から寄り添い、温かく見守り、時に必要とあらばサポートすることが大人の務めであり責務である。

5. 大人のエゴイズムで少年たちを傷つけてはならない。

我々の活動は、地域の子供さんを預かり「地域社会、国家のために役立つ青少年を育成する大事業である」という認識を常に心に刻み、いささかも指導者同士の争いを寸分も垣間見せてはならない。人格形成の上で最も大切な少年期後半に大人のエゴを見せつけては、我々は何のために存在しているのか。我々は、協会に集う選手一人ひとりの保護者の如く青少年の成長を守る団体であることを忘れてはならない。

6. ポニーはグラウンドでも会合でも「機会均等主義」である。

会合等において他人の発言を封じ、自己の主張のみを通そうとする指導者は「破壊者」であり、人・組織の成長を妨げるものである。組織運営に当たっては、全ての者が常識のある発言をし、理事長をはじめ上級の責任者は、日本ポニーベースボール協会の永遠の発展と選手個人々の健やかな成長を願い、良識ある結論を出さなくてはならない。

いかなる者の発言といえども平等な権利を有するものであり、機会は均等に与えられるべきものである。未来の指導者育成に於いても、「機会均等主義」を貫くべきである。

7. 選手の指導をとおして指導者自身が成長すべきである。

指導者は選手を指導することが肝要であるが、その過程で自らを教育・律する「生涯学習」を実践し、自らを成長させることに無上の喜びを感じ、自らを磨く不断の努力を実践しなければならない。指導者は支配者ではない。

指導者とは、「生涯学習」の精神の下、自身の不断の努力と選手諸君・保護者・学校・地域との十分な連携とコミュニケーションにより「青少年を最適な成長軌道に導く者」である。



Protect Our Nation's Youth

8. 選手は自分の所有物ではない。

選手は保護者から、学校、地域からお預かりした大切な宝物である。指導者は自己の権力、欲望のために野球技術を教えるものではない。逆に、「子供達と一緒にプレーをし、共に成長を夢見て、童心にかえり共に歓喜する」心を持つべきである。

9. 常に感謝の心で会の運営に当たろう。

自分以外、例えば他のチームに対しても感謝の気持ちがなければならない。「対戦相手があってこそこの試合」の 原理 原則を考えれば当然のことである。そこに行きつて試合をすれば良いというものではない。球場の整備、保護者の支援、地域の理解等、どれをとっても様々な方々の理解と支援を拝受するものである。常に考えを相手の立場においたならば「感謝せずにいられない」ことは火を見るより明らかである。

10. 協力者があってこそ会の運営が可能である。

我々だけではこの協会の運営は不可能である。国内をはじめ広く世界の理解ある協力者があってこそ選手諸君のための協会事業活動が可能である。「我々のやっていることは良いことをしているのだから…」と独善的な考えにより協力者に対し不遜な態度で接すれば、協会の存在意義が 問われる。今後共あらゆる協力者が、より一層団結し、選手の成長を守る活動の質・量両面からの充実が図れるよう、全ての協会関係者は、全ての協力者を尊重し・感謝する行動を取らなければならない。

Protect Our Nation's Youth

SPORTSMANSHIP

スポーツマンシップの基礎知識

§1. スポーツ

スポーツ＝運動（身体活動）＋ゲーム（ルール＋競争＋遊び）
愉しくなければスポーツではないのです。

§2. スポーツマン

Sportsman=Good Fellow
スポーツマンは、他人から信頼されるカッコいい人のことです。

§3. スポーツマンシップ

スポーツマンシップとは Good Game を実現しようとする心構え。
私たちが生きる上でも重要となる人格的な総合力のことです。

§4. 尊重

「プレーヤー（対戦相手／仲間）」「ルール」「審判」を大切に思う気持ちのこと。
さまざまな立場や多様性を理解し許容し、つねにフェアに行動することが大切です。

§5. 勇気

勇気とは、困難や危険を恐れない気持ちのこと。
自らよく考え、責任をもって決断し、実践するチャレンジ精神を大切にしましょう。

§6. 覚悟

覚悟とは、勝利をめざして全力を尽くす気持ちのこと。
困難や苦しみを受け入れ、あきらめずに楽しみ抜くことが大切です。

§7. ルール

ルールはスポーツを愉しむための約束事です。
そこには、競争を愉しむ上での本質が集約されています。

§8. 原理原則

スポーツの原理とルールの前提となる原則。
スポーツを愉しむ上で不可欠なのがスポーツマンシップです。

§9. たかがスポーツ、されどスポーツ

スポーツは人生においてささやかな遊びにすぎませんが、
その複雑さを理解して、真剣に取り組むことで大きな価値を発揮します。

すべてはプレーヤーのために

ー指導者のみなさんへ

愉しむために勝利を追求するのであり、勝つために愉しむものではありません。指導者がこの順序を間違えてしまうと、勝利至上主義の道に進んでしまいかねません。ここに、体罰がなくならない最大の原因があります。指導者はプレーヤーに対して、指導している間だけの責任を負うではありません。彼らの人生に関わる立場であることを理解しましょう。目先の勝利を追い求めた結果、思考力や表現力や自律心を育むべき年代における適切な訓練を受けられなかったプレーヤーの未来がどうなるか……。すべての指導者がそこに思いを馳せる義務があります。



Protect Our Nation's Youth

§1. スポーツ

スポーツ＝運動（身体活動）＋ゲーム（ルール＋競争＋遊び）
楽しくなければスポーツではないのです。

スポーツは運動、身体活動です。しかし、それは単なる運動ではありません。たとえば、高齢者が健康やリハビリのために散歩するのは運動ではあっても、スポーツではありません。実は、運動にある要素を加えないとスポーツにはならないのです。

その要素とは「ゲーム」です。

スポーツをする時に、「ゲーム（Game）をプレー（Play）する」とよくいいます。試合のことをゲームと呼び、またゲームの参加者のことをプレーヤー（Player）と呼びます。Playには遊ぶという意味がありますが、ゲームとは、ルールにのっとって勝敗を競う遊びのことをいいます。ここで大切なのは、ゲームや遊びは誰かに頼まれてするものではなく、自主的に楽しむものだということ。スポーツとは、「いいゲーム（Good Game）をめざして自らプレーする身体活動」のことだということを理解しましょう。

スポーツの語源は、ラテン語の「^{デポルターレ}deportare」です。これは、気晴らし、休養する、楽しむ、遊ぶという意味でした。その後、desport（中世フランス）となり、disport（14世紀イギリス）として使用され、その後、sporteまたはsport（16世紀以降イギリス）と省略されていき、19世紀から20世紀にかけて国際的に使用されるようになったのです。こうして変化を遂げながら、私たちがスポーツと呼んでいるものは19世紀のイギリスで創られたため、イギリスは「スポーツの母国」と呼ばれます。そしてその語源にあるように、スポーツは遊びであることを忘れてはいけません。

それまではただの遊びだったものが、ルールができ、スポーツになった背景には、イギリスにおける産業革命と植民地政策が大きく影響しています。

植民地をマネジメントするためには、有能な人材が必要でした。その人材育成を担っていたのが、パブリックスクールでした。

植民地の多くは、本国イギリスとは気候やその他の自然条件が違いますし、生活環境も整っていません。水が合わなかったり、猛暑や酷寒という過酷な気象条件にさらされることもあります。したがって、植民地に派遣されるマネジャーには、体力、筋力、内臓を含めて、いかなる条件にも耐える「強靱な身体」が大切でした。また、さまざまな困難が待ち受ける

場所へ、尻込みせず、むしろ誇りに思っ率先して赴く「勇気」も必要です。危険にもひるまず、不安に立ち向かい、毅然と対処する「決断力」と「行動力」が求められたのです。さらには、電話やインターネットといった通信環境も整っていない時代ですので、本国による監視の目が届かない遠く離れた地では、どんな規則や罰則も効き目はありません。したがって、本人が自らを戒める「自律心」も必要です。そして、国に忠誠を尽くす「忠誠心」を持ち、ごまかしや不正を許さない「誠実さ」も求められました。その上で、仲間とコミュニケーションをとり、言語、人種、文化の違う現地人をも理解するためには「尊重」の精神も不可欠です。ここで述べた能力はすべて、スポーツのプレーヤーに求められる能力でもあります。これらの能力が遊びを通して身につくように、スポーツを創り出し活用したのです。

一方、19世紀には産業革命が起こり、機械による生産が始まり、工場が建てられ、都市ができました。それまで村で農業をしていた人々が工場で働くために都市にやってきました。労働者は週6日働き、日曜は休むようになります。労働者は、余暇の日曜日にスポーツを愉しむようになりました。パブリックスクールで学ぶような上流階級だけの遊びだったスポーツが、こうして大衆化され誰もが愉しめるようになっていきました。労働者たちはスポーツを賭け事の対象にしたため、「勝敗」の重要性がより高まっていきました。スポーツが大衆化したことによって、人々はより結果にこだわるようになっていったのです。

スポーツは遊びの一種ですが、単に愉しむだけでなく真剣でなければなりません。それはゲーム、勝敗をかけた競争だからです。勝利をめざして競争することがスポーツの本質です。

しかし本来、紳士のスポーツでは、勝敗にこだわることは下品で、「ゲームにおいてどのように振る舞ったか」が一番重要でした。快楽ですが、困難もあります。結果次第で喜ぶこともあれば悲しむこともあります。スポーツ本来の趣旨は、結果に至る過程を愉しむ遊びです。こうしたことを理解した上で、真剣に愉しむのがスポーツなのです。私たちは、そのことを忘れてはなりません。

このように、スポーツとは、「運動を通して、競争を愉しむ真剣な遊び」のこと。

スポーツは人間が愉しむためのものなのです。



Protect Our Nation's Youth

§2. スポーツマン

Sportsman=Good Fellow

スポーツマンは、他人から信頼されるカッコいい人のことです。

『広辞苑』で「スポーツマン」を引くと「運動競技の選手。またスポーツの得意な人」と書かれています。一方で、POCKET OXFORD DICTIONARY 1969 年版では「sportsman = good fellow」と訳されています。すなわち、スポーツマンとは「よき仲間」だというわけです。いい換えれば、スポーツマンは「カッコいい人」だといえるでしょう。

「good fellow =よき仲間」という訳の中には、運動に関する要素がそもそも含まれていないことには驚かされますが、どちらの訳がスポーツマンとしてふさわしいでしょうか。身体的要素以上に、内面や精神に関わる意味合いが重視される方がしっくりくるように思えます。

- ◆尊重 (Respect) : プレーヤー (相手、仲間)、ルール、審判に対する尊重
- ◆勇気 (Braveness) : リスクを恐れず、自ら責任を持って、決断・行動・挑戦する勇気
- ◆覚悟 (Resolution) : 勝利をめざし、自ら全力を尽くして最後まで愉しむ覚悟

我々は、これらの 3つの気持ちを備えている人をスポーツマンと定義しています。

真のスポーツマンかどうかは、勝負に敗れた時の態度でわかります。全力で勝利をめざすことがスポーツの前提です。それゆえ、負けた時に素直に敗北を認めることは簡単ではないわけです。真のスポーツマンは、敗れても悔しさをこらえ、素直に自らの敗北を認めて相手をたたえ、意気消沈することなく負けた原因を分析し、弱点を克服すべくまた努力をして、次の勝利に向かって立ち向かえる人です。こういうプレーヤーを英語で「Good Loser (よき敗者)」と呼びます。

また一方で、勝ったとしても驕ることなく謙虚さを忘れない人は、「Good Winner (よき勝者)」と呼びます。

勝って驕らず、負けて腐らず。

スポーツを深く理解し愉しむことができる人。自らを律することができる、他人から信頼されるカッコいい人。そんなふうには、スポーツ本来の意味や価値を理解し、スポーツマンシップの意義を理解し実践できる Good Fellowこそが「スポーツマン」なのです。

§3. スポーツマンシップ

スポーツマンシップとは Good Game を実現しようとする心構え。
私たちが生きる上でも重要となる人格的な総合力のことです。

スポーツマンシップとは、スポーツマンになるための心構え。「Good Game を実現しようとする心構え」のことをいいます。

ここでいう Good Game を実現するための条件とは、スポーツに参加するすべてのプレーヤーが、前項で述べた 3 つの気持ち「尊重(Respect)」「勇気(Bravery)」「覚悟(Resolution)」の精神を発揮し、スポーツマンらしく振る舞うことです。

相手、仲間などのプレーヤー、ルール、審判に対する「尊重」は「フェアプレー (Fair play)」や「チームワーク」につながります。そして、責任をもって決断する「勇気」や、勝利をめざして自ら全力を尽くしてやりぬき愉しむ「覚悟」は自らを鍛える自己成長・自己研鑽を実現します。アスリートが競技を通じて少しずつ身につける人格的な総合力ともいえます。

スポーツマンには自主性と判断力が求められます。スポーツをするということは、スポーツを愉しむ人それぞれが自主的にそのスポーツの意味を理解し、尊重することが大前提となるのです。スポーツに大切なことを尊重し自らが判断するということが、スポーツマンに求められる重要な要素です。

スポーツマンシップの精神を持つことで、自らをとりまく人々の多様性やさまざまな困難を許容し、差別や偏見のないフェアで公正な考え方ができるようになるとともに、自らの戦いに挑み、自己に打ち克ち、自分自身を磨き成長することができるようになるのです。

スポーツマンシップはゲームの中だけに限定した概念ではありません。真の Good Game を実現するためには、ゲームの間だけよき振る舞いをしていけばいいのではなく、ゲームに臨む過程から、いいプレーができるように知性、精神、肉体を磨き上げることが求められますし、ゲーム終了後も結果に左右されない人格者としての振る舞いが求められます。スポーツそのもの、ひいては日常生活のすべてを愉しみながら人間力を鍛えることが重要です。

ゲームや勝敗は、スポーツを愉しむための手段にすぎません。スポーツ本来の目的は、こうした手段を通じて「よき人格者(Good Fellow)に必要な要素を身につけること」なのです。スポーツを通して、総合的な人間力を磨くことの大切さを理解しましょう。

このように理解すると、スポーツマンシップを身につけたスポーツマンを、Good Fellow と呼ぶのも納得がいくのではないのでしょうか。



Protect Our Nation's Youth

§4. 尊重

「プレーヤー（対戦相手／仲間）」「ルール」「審判」を大切に思う気持ちのこと。
さまざまな立場や多様性を理解し許容し、つねにフェアに行動することが大切です。

立場が違う存在の価値や多様性を認め、大切に思うことが「尊重(Respect)」です。スポーツマンがスポーツをプレーする上で、最も基本的な態度であり最も重要な能力です。

スポーツはゲーム。そしてゲームは競争です。

ゲームをプレーできるのは、対戦相手がいるからこそ。強い相手に勝利するために、私たちは自らの能力を高めようとトレーニングに全力で取り組み、ゲームでは最高のパフォーマンスを発揮しようと全力でベストを尽くします。そして相手も、私たちに本気で向き合ってくれるからこそ、本当に楽しむことができます。すべてのプレーヤーが、いいゲーム (Good Game) を創る義務を負っています。参加者全員が全力で戦い、対戦相手より優れた成果を出そうという努力があってはじめて、Good Game が成立するのです。

私たちと相手は、ともにゲームを楽しむという価値観を共有するパートナーです。一見、敵対関係に見えますが、スポーツで対戦するのは「相手 (Opponent)」であり、決して「敵 (Enemy)」ではありません。自らを高める機会を与えてくれた相手は、ゲームを楽しむために欠かすことのできない大切な仲間であり、尊重すべき対象であることを理解しましょう。

ルールはスポーツを楽しむための根本です。また、ルールを司る審判も、プレーヤーがゲームを楽しむために競技の進行をスムーズに保つ大切な仲間です。対戦相手同様、ルールも審判もプレーヤーとは立場が違う存在ですが、ゲームを楽しむために不可欠なのです。

チームメイトへの尊重も大切です。チームメイトも自分とは異なる他者であることも理解しましょう。対戦相手同様、チーム内で切磋琢磨するライバルの存在が自らを高めてくれるケースも多いはず。さまざまなチームメイトを尊重し、理解しようと協力し合う「チームワーク」が欠かせないことは、スポーツに関わったことのある人であればよく理解できるはず。

相手、仲間、ルール、審判。スポーツを取り巻くすべてを尊重し、正々堂々と戦う「フェアプレー」の実践は、スポーツマンとしてスポーツを楽しむ上で最も重要なことの一つです。

§5. 勇気

勇気とは、困難や危険を恐れない気持ちのこと。
自らよく考え、責任をもって決断し、実践するチャレンジ精神を大切にしましょう。

スポーツマンには、自主性と判断力が求められると先に述べました。しかしながら、自ら考え、決断し、実行することは、口でいうほど簡単なことではありません。

負けたらどうしよう。

失敗したらどうしよう。

恥をかいたらどうしよう。

私たちの心の中には、つねにそうした恐怖心が芽生えやすいものです。決断し実行するには、選択した本人の責任が問われる側面があるからです。しかし、失敗を恐れるがばかりに、消極的になってしまっていたのでは、自らの成長が妨げられるばかりではなく、結果的に成功や勝利の可能性も奪われていくことになります。勝利をめざして戦う過程では、さまざまな困難が立ちほだかります。尊重すべきとは頭でわかっている、屈強すぎる相手やずるをする相手と向き合えば、そのような余裕はなくなりがちです。それでも**対戦相手やさまざまな困難などのリスクに立ち向かい、挑戦し続ける気持ちをもって、恐れることなく戦うことが必要です。**このように、**困難や危険を恐れない心、いさましい意気が「勇気」**です。

昨今、企業などにおける不正事件が露見し、ニュースで取り沙汰されています。ルールやモラルに反する悪いことと知りながら事実を隠すのは、自分自身にウソをつくことでもありません。命じた経営者の責任が重いことはもちろんですが、命じられて隠蔽した社員の側にも少なからず責任があります。伝えるためのコミュニケーションは難しい問題となりますが、それでも「こういうことはやめましょう」と発言する勇気があれば防げたことかもしれません。

みんながやっていることだから。誰かが発言してくれればいいのに。

私たちはついそう考え、他人任せにしがちです。**他人と同じだからと安心するのではなく、自ら考え、決断し、勇気を出して行動できるスポーツマンをめざすべきです。他人と違うことを恐れず、自らの個性を大切に挑戦し続けましょう。**



Protect Our Nation's Youth

§6. 覚悟

覚悟とは、勝利をめざして全力を尽くす気持ちのこと。
困難や苦しみを受け入れ、あきらめずに楽しみ抜くことが大切です。

スポーツは、いいゲーム (Good Game) をめざして自らプレーする身体活動です。自ら愉しもうと決めたからには、自ら徹底的に愉しむこと。勝利をめざして全力を尽くし、その過程にある困難や苦しみをすべて受け入れ、あきらめないでやりぬくことが大切です。勝利してうれしい時もあれば、敗北してつらい時もあります。スポーツとはそういうものなのです。
スポーツに挑む以上、さまざまなリスクも含めたスポーツの性質を認識し、負けた時にも事実を受け止め、敗因を分析、反省し、次の勝利に向けてまた全力で挑む気持ちが大切です。これが、スポーツに挑む覚悟です。

覚悟ができると、当事者意識が芽生えます。当事者意識とは「自分が全責任を負わないと機能しない」というくらいの認識をすること。当事者意識がない人は、誰かのせい、なにかのせいにして不平不満が多くなったり、思考・発言・意見・提案をせず、すぐに答えがほしくなったり、組織への帰属意識や自らに対する客観的な視点をもてなかつたりします。

スポーツで、ルールを守ることが重要なことはいうまでもありません。ルールに記載されている範囲を逸脱し禁止条項に触れれば、反則として罰せられます。

一方で、相手、仲間、ルール、審判を「尊重しているかどうか」は、外見から判断がしにくいものです。しかも、尊重していないからといって反則に問われることもありません。したがって、どうしても疎かになりがちです。しかし、ルールに書いてないからといってスポーツの本質を忘れてしまうと、ゲームが成立したとしても、本当の意味で心からゲームを愉しむことはできなくなってしまいます。

繰り返しになりますが、ゲームを愉しむことがスポーツの基本です。もし愉しめないのであれば、そもそもスポーツをする意味がなくなってしまいます。単にルールを守るだけではなく、**相手、仲間、ルール、審判を尊重しながら、スポーツを愉しむためにさまざまな困難や苦しみも受け入れ、最後まで諦めず全力を尽くす気持ちを持ち、いいゲームを創ろうとする覚悟こそ、真のスポーツマンに求められる大切な要素なのです。**

§7. ルール

ルールはスポーツを愉しむための約束事です。
そこには、競争を愉しむ上での本質が集約されています。

ほとんどすべてのスポーツにおけるルールは、次の3つの機能を有しています。

- ◆共通化 (前提条件・公平性)
- ◆非暴力 (暴力の抑制・安全性)
- ◆困難性 (難しさの増加による楽しみの増加)

「共通化」は、勝利・得点の定義や空間・時間などの数値条件を定義すること。この点に関して、プレーヤー全員の共通理解がないとゲームが成立しません。「非暴力」は、紳士（ジェントルマン）の条件。文明人として、文章化されたルールに則って、暴力に訴えない冷静な対応が求められます。「困難性」は、守りにくい条項をルールに設けること。これは、ルールを守るという原則に対していい訓練になると同時に、困難な条件を乗り越えることにより愉しめるという価値観が反映されています。

これら **3つの機能は、すべて「スポーツを愉しむため」に人が考え出したもの**なのです。

スポーツの歴史を学ぶことは大切です。スポーツの道具や取り巻く環境は、時代の流れや環境や技術の進歩によって日々変化していきます。ルールは決して固定化された守るべきものという視点だけではなく、時代に応じてより愉しめるように改善していく発想も必要です。

ルールの尊重とは、単に条文を守るだけでなく、ルールが存在する意味を理解し、歴史的な成り立ちや変遷を理解することも含みます。また、競技やゲーム・大会などの背景を学ぶことも、スポーツを理解する上で、そしてスポーツマンシップを習得する上で重要です。

本当の意味でスポーツを愉しむには、**歴史や伝統を学び理解した上で、自分もその世界に参加するという覚悟が必要**です。ルールをはじめ、スポーツをどのように理解し、ゲームでどのように振る舞ったかが、将来のプレーヤーが新たに学ぶべき伝統へと受け継がれていきます。参加者一人ひとりが、そのスポーツの伝統に対する責任を負うことを認識しましょう。

すべてを理解し尊重することが、優れたスポーツマンには求められるのです。



Protect Our Nation's Youth

§8. 原理原則

スポーツの原理とルールの前提となる原則。
スポーツを愉しむ上で不可欠なのがスポーツマンシップです。

スポーツを真剣に愉しむことによって人は成長します。スポーツマンを育てる「スポーツマンシップ」こそが、スポーツの本質的なキーワードとなる「原理」です。同時に、この原理を成立させるために守るべき「原則」もスポーツマンシップといえるかもしれません。原則とは、確認するまでもなく前提として誰もが心得ている共通了解事項のこと。そして、スポーツをする上での原理原則が「スポーツマンシップ」だといえます。

- ◆スポーツは過程を愉しむゲームである (Play! Enjoy!)
- ◆プレーヤー全員がいいゲーム (Good Game) を創る義務と責任を負う
- ◆スポーツを愉しむために設けられているルールを守る
- ◆対戦相手、仲間、審判など、自分と異なる立場の他者を尊重し大切にす
- ◆勝利を求めて全力を尽くして努力し諦めず最後までやりぬく義務を負う

重要なことは、上述したように原理原則である「スポーツマンシップ」を欠くと、スポーツを愉しむことができなくなってしまうという点です。最も基本である愉しむことができないなら、スポーツとして成立しません。スポーツマンシップという原理原則は、ルール、マナー、モラルも含め、スポーツ特有の伝統や慣習を理解し、尊重することを求めるのです。

「選手宣誓」でスポーツマンシップを宣言するのは、ゲームの開始前に参加者全員共通の理解を確認しておくことが目的です。19世紀にスポーツを編み出したイギリスの紳士たちにとっては、スポーツをする第一の目的はスポーツマンシップを示すことであり、勝負だけにこだわる人は下品だという評価を受けたので、このような宣誓は必要ありませんでした。しかし、スポーツが大衆化するにしたがい、わざわざ宣言しないとスポーツマンシップが守られなくなっていったのも事実です。

スポーツマンシップは綺麗事です。実践するのは決して簡単ではありませんし、この心構えを発揮するためには相応の覚悟が必要となります。スポーツの価値を守るために、全員がスポーツマンとしての覚悟をもって行動してほしい。その思いが、選手宣誓という形に現れているのです。

§9. たかがスポーツ、されどスポーツ

スポーツは人生においてささやかな遊びにすぎませんが、その複雑さを理解して、真剣に取り組むことで大きな価値を發揮します。

本質は遊びであることから、スポーツは社会に絶対不可欠なものではないことはわかります。なによりも重要なことだと信じて、人はスポーツに打ち込み勝利をめざしますが、実はほとんどの場合、人生における成功とは関係がないものです。たかがスポーツなのです。

その一方で、スポーツの本質を理解し、真剣に取り組めば自分自身を成長させることができるように、スポーツは価値が高いものであるのも事実です。お金や地位や名誉や人気、あるいは勝利した瞬間の喜びまで含めた成果が問題なのではなく、スポーツを通して得られる喜びや価値が重要であり、結果以上に過程こそが重要な意味を持つということを再認識しましょう。されどスポーツなのです。

自分自身を鍛えて磨き、全力かつフェアに戦わなければならない一方で、それが単なる遊びでしかないというのがスポーツです。スポーツ自体に価値があると認めながら、一般的な物事全体の中ではそれほど重要ではない。スポーツを尊重するということは、スポーツの複雑で逆説的な構造を理解することでもあります。

勝利至上主義と快樂至上主義のせめぎ合い。

真剣に勝利をめざすが、所詮は遊びである。

勝利はめざしつつも、フェアに戦うべき。

勝って驕らず、負けて腐らず。

敗北は悲しいが、Good Loserとして勝者を称えるべき。

勝利はうれしいが、Good Winnerとして敗者を慮るべき。

他者を尊重する利他の精神と、徹底的に自己研鑽する利己の追求。

スポーツは一見単純な身体活動でありながら、考えれば考えるほど、決して両立し得ないような二律背反的なパラドクスがつきまとう複雑な難題と実は立ち向かっていることに気づくはずです。スポーツを指導する際には、スポーツは競争だがあくまで遊びであり、遊びでありながら真剣に取り組むことによって価値の高いものになりうることをプレイヤーたちによく理解させる必要があるのです。



Protect Our Nation's Youth

すべてはプレイヤーのために

真の優れた指導者とは、自らをはるかに超えるような人材を育てられる人。
あなたの思考や行動が、指導を受けるプレイヤーの人生に大きな影響をもたらします。

スポーツをより愉しめるようにプレイヤーを導くことが指導者の役割。
プレイヤーを尊重しましょう。プレイヤーの声に耳を傾け、ほめてあげましょう。

プレイヤーの個性・多様性を尊重しましょう。
プレイヤーが勇気をもってチャレンジし失敗できる環境を整えましょう。

スポーツが上手な人を育てることだけが指導の目的ではありません。
指導者は他人の人生を預かる立場。自らもつねに学び続け、成長し続けましょう。

日頃、目先の勝利が必要に感じることは少なくないかもしれませんが、もっともっと長い目で指導することが大切です。欲望に負けがちなプレイヤーたちに、スポーツの本質であり、原則である「スポーツマンシップ」の理解を促し、ゲームの場で実行するよう導くことが指導者に求められる役割です。プレイヤーには、すべての局面で、冷静さと情熱を失わず、集中力を高め、誰にも頼らずに問題点を把握し、その解消方法を考え、実行に移し困難を乗り切る能力が期待されます。

ゲームでこうした能力を発揮するには、日常から考えて実践するトレーニングが大切です。しかし、指導者の言葉に従わせているだけでは、決してそのような能力は身につきません。自ら考え、判断し、実行し、その結果に責任を持つように指導することが、スポーツマンを育てることにつながります。

指導者は、プレイヤーを指導する期間だけでなく、その後の人生にも大きな影響を与える役割であることをぜひ自覚してください。自分と同じ人は他に一人としてなく、自分の価値観も絶対的なものではありません。すべてにおいて唯一無二の正解はないのです。自らを疑い、学び続け、プレイヤーに寄り添い、ともに考えともに成長することを心がけましょう。

なぜいま、スポーツマンを育てなくてはならないのか。

スポーツマンシップ。

ほとんどの人が、スポーツの開会式における選手宣誓をはじめ、一度は聞いたことのある言葉だと思います。しかしながら、あらためてスポーツマンシップの意味を問われると、多くの方が戸惑ってしまいます。スポーツをする上で重要な精神であることを認識しながら、多くの人が説明できないというのは問題ではないでしょうか。

1969年版のPOCKET OXFORD DICTIONARY(英英辞典)では、「sportsman」という単語は「good fellow」と訳されています。すなわち、スポーツマンとは「よき仲間」だというわけです。スポーツマンシップがスポーツマンらしさであると考えれば、身体的要素に加え、内面や精神に関わる意味合いが含まれている方がしっくりくるように思えます。ちなみに、英語には、「He is a good sport.」という言い回しもあります。これは、「彼は信頼に足る人物である」という意味です。スポーツを正しく理解し楽しむことができる人とは、信頼のおける「カッコいい人」と言い換えることもできるでしょう。

近代スポーツの基本的な枠組みは、19世紀半ば、英国のパブリックスクールで完成されたとされます。単なる「身体を使った遊び」だったものが、ルールに基づいて勝敗を競う「ゲーム」として構成されていきました。社会的能力として「知力」「徳力(倫理力)」「体力」の3つを整えることが重要だといえますが、当時のパブリックスクールの学生たちにとって、スポーツはこれらの社会的能力を身につけ、思考力、判断力、行動力、コミュニケーション力、誠実さ……などに代表される人間力を鍛える場だったのです。スポーツマンシップを示すことや、スポーツマンらしく振る舞えたかどうかこそが最も重要であり、それがスポーツの目的でした。その目的を果たすために、勝敗を競うゲームという形式が有効だと考えられていたのです。しかしながら、残念なことに、今日では多くの場合、この目的と手段の関係が逆転してしまっているようです。

スポーツマンシップとは、「他者への尊重」「自ら挑戦する勇氣」「諦めず全力を尽くす覚悟」を備えた上で「Good Gameを実現しようとする心構え」のこと。スポーツは、スポーツマンシップを理解し実践できるスポーツマンを育てる場なのです。そんな「カッコいい人=スポーツマン」が増えれば、スポーツ界がよくなるばかりか、よりよき社会、よりよき世界となることを期待できるはずです。

このハンドブックは、スポーツを実践する上で本質ともいえる「スポーツマンシップ」を理解するヒントにさせていただくために作成しました。本書の内容を理解すると、みなさんのスポーツへの取り組み方が変わるはずですし、スポーツをもっと深く知り、^{たの}しみたいと思うはずです。今こそ、スポーツ本来の価値を見直し、スポーツマンシップを理解し実践することを通して、よりよき人を育み、よりよき社会づくりに挑戦していきましょう。



Be a good sport.



Protect Our Nation's Youth



2021年7月22日
発行：一般社団法人 日本ポニーベースボール協会
編集：一般社団法人 日本スポーツマンシップ協会

website



sportsmanship.jpnn.com

facebook

